

平成 20 事業年度監事監査報告書

平成 21 年 6 月 9 日

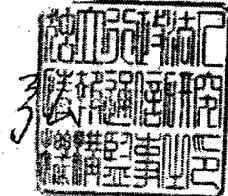
独立行政法人情報通信研究機構

理事長 宮原 秀夫 殿

独立行政法人情報通信研究機構

監事 (常勤)

杯



監事

藤本



独立行政法人通則法第 19 条第 4 項及び同法第 38 条第 2 項の規定に基づき、独立行政法人情報通信研究機構（以下「NICT」という。）の平成 20 事業年度の業務及び財務諸表等について監査を実施し、本監査報告書を作成しましたので、以下の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、NICT 監事監査要綱に準拠し、平成 20 年度監事監査方針、職務の分担等に従い、理事長及び理事並びに内部監査部門である監査室職員その他の職員と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、内部統制の状況、随意契約等の契約の状況、保有資産の見直し状況、給与水準の適正化の状況、公的研究資金の管理・監査体制の整備・運用状況、委託研究・助成金に係る不正防止対策の取組み状況等について重点監査事項として設定し、理事会、企画戦略委員会、推進会議その他重要な会議に出席し、役職員からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じ説明を求め、重要な決裁文書等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、平成 20 事業年度の業務運営について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じ説明を求めました。また、会計監査人から、「監査に関する品質管理基準」（平成 17 年 10 月企業会計審議会）等に準拠して、職務を適正に行うことを確保するための体制を整備している旨の報告を受け、必要に応じ説明を求めました。以上の方法に基づき、平成 20 事業年度に係る独立行政法人通則法第 38 条の規定に定める財務諸表及び決算報告書について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 業務の監査結果

事業報告書は、NICTの業務運営の状況を正しく示しているものと認めます。

理事長及び理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令に違反する重大な事実は認められませんでした。

なお、今後も、引き続き、内部統制の一層の向上を図り、また、随意契約見直し計画の着実な実施に取り組むことが重要であると考えます。

(2) 財務諸表及び決算報告書の監査結果

会計監査人である監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

財務諸表（利益の処分又は損失の処理に関する書類（案）を除く。）が、独立行政法人会計基準及び我が国において一般に公正妥当と認められる会計の基準に準拠して、NICTの財政状態、運営状況、キャッシュ・フローの状況及び行政サービス実施コストの状況をすべての重要な点において適正に表示していると認めます。

利益の処分又は損失の処理に関する書類（案）は、法令に適合しているものと認めます。

決算報告書は、NICTの予算の区分に従って決算の状況を正しく示していると認めます。